

第22回

はすまつり

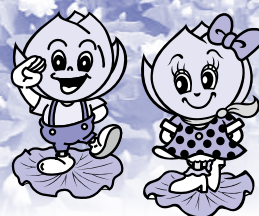
7月5日、花はす公園で第22回はすまつりが開幕しました。

オープン式では、テープカットとくす玉開披、南条龍神太鼓保存会の演奏が行われ、まつりの開幕を祝いました。

公園では約130種類の世界各国のハスが栽培されており、大輪の花をカメラに収めたり、ベンチに座ってのんびりと眺めたりと思い思いに花はす公園を楽しむことができます。

また、復興のハス・萬歳楽蓮（まんざいらくれん）を今年から栽培しています。このハスは、福島県国見町の溜め池で50年ほど前に途絶えていましたが、東日本大震災で沼の地盤に亀裂が生じたことにより、突然芽吹き、真っ白で大きな花を咲かせました。

はすまつりは、8月3日まで開催されており、期間中の土、日曜日には、ハスの葉にジュースなどを注ぎ茎をストロー代わりにして飲む象鼻杯やステンドグラス作り体験ができますので、皆さまぜひお越しください。



第18回

河野うめまつり

6月22日、河野うめまつりが河野シーサイドパーク駐車場で開かれ、梅の加工品や海産物などの河野地区の特産品の販売、また梅にちなんだ催しや体験イベントが行われました。

この祭りの目玉でもある梅もぎ体験には、約80人が参加。祭りの開催時期を例年より1週間遅らせたこともあり、作柄は大粒で良質な梅となり、参加者は「おいしそうな梅の実がたくさんなっている」「一年分の梅ジュースにする」などと話し、カゴいっぱい収穫を楽しんでいました。

また会場では、梅干の種を口から吹き出しその飛距離を競う、梅ぼしのたね飛ばし選手もおり、飛ばした梅干の種が着地しコロコロと転がり飛距離を伸ばすと会場から歓声が起こりました。

塗り箸（幼児はスプーン）を使い、制限時間内に梅を隣りのかごに移した数量を競う、青梅早つまみ競争では、出場した子供たちは真剣なまなざしですべる青梅を素早く移し替えようと挑んでいました。

